

令和5年度第3回役員会会議報告

日時：令和6年3月12日（火）10時00分～12時20分

オンライン開催

出席者：15名

○役員（11名）

辻川会長、佐々木副会長、森本副会長、金原理事、杉山理事、藤吉理事、西理事、青山理事
（稲田代理）、定兼理事、福嶋理事、毛塚監事

欠席 早川副会長

○会長事務局（3名）

○副会長事務局（1名）

1 報告

（1）令和5年度第2回役員会会議報告

○会長事務局より会議報告案を報告。内容確認の上に加除修正が必要であれば、3月15日までに会長事務局へ連絡願う。その後、全史料協ウェブサイトに掲載予定。

（2）会員の現況及び令和5年度会費納入状況報告

○会長事務局より2024年1月31日現在の会員数の現況及び会費納入状況について報告。

（3）令和5年度事業結果報告

○各理事及び事務局より事業結果について報告。

（4）地域別協議会活動報告

○各理事より関東部会、近畿部会の活動報告。

○辻川会長 関東部会、近畿部会の活動が日常的に会員のニーズにこたえられる重要な活動だと思う。今年度も活発に活動を続けていただいたことに感謝する。各委員会の業務においても例年どおりあるいは例年にもまして活発な活動ができたと思う。

（5）令和5年度決算見込額について

○会長事務局より会全体の決算見込みについて報告

（6）能登半島地震災害対応活動について

○辻川会長より全史料協の取り組み概要について報告。

- 森本副会長より富山県高岡市への訪問聞き取りについて報告。
- 杉山理事より調査・研究委員会としての活動について報告。
- 副会長事務局及び佐々木副会長より福井県の状況について報告。
- 辻川会長より石川県、福井県、富山県、新潟県の状況及び全史料協の個別の取り組みへの会の予算執行について補足説明。
- 定兼理事 森本副会長の高岡市訪問への全史料協からの費用弁償はあったか。杉山理事の報告にあった国との協議というのは国のどこか。
- 森本副会長 自身の富山市出張の空き時間を使って高岡市を訪問したので特に請求はしていない。
- 定兼理事 全史料協副会長の肩書で高岡市訪問の様子は地元の新聞記事にも掲載されているので少額であっても全史料協としての活動の形を残すために費用を支出したほうがよい。
- 森本副会長 それが筋であると理解はするので、記録を残す意味も含めて事務局と相談する。
- 杉山理事 国というのは文化遺産防災ネットワーク推進会議というのがあり、参画団体として全史料協も入っている。推進会議の座長が事務局をやっている奈良文化財研究所であり毎週月曜日に会議をやっている。その会議での協議で進めている。実際的な業務としてどういうレスキュー活動をするかは文化財防災センターというのが奈良文化財研究所にあり、そこの協議となる。
- 辻川会長 先日のアーカイブズ関係機関協議会では、国はあまり積極的に被災地の非現用文書についての働きかけや把握はしていないようだとの話があった。逆にこちらから情報を入れたり刺激を与えて積極的になってもらったらいと思う。
- 会長事務局より全国歴史史料ネットワークの動きについて報告。

(7) 会誌『記録と史料』投稿規程の改正等について

- 藤吉理事より会誌『記録と史料』投稿規程の改正および全史料協への参加呼びかけの会誌掲載について報告。
- 森本副会長 現状の講演、翻訳は新しい規程では「研究ノート」になるということか。
- 藤吉理事 現状の「研究」は寄せられた会員の自主的な投稿ということだが、それを「論文」と「研究ノート」に分けて整理した。投稿者が「研究ノート」とするのもしんどいということもあるので、「その他」もしくは「アーキビストの眼から」のいずれかで掲載できるようにする方向にしようと考えている。翻訳や講演もとりあえず投稿されたものを翻訳者や筆者と相談により考えていきたい。翻訳や講演を受け付けないということではない。
- 毛塚監事 今の説明を聞いたこの場の役員は納得できるが、改正された規程を読むと翻訳と講演はどうなってしまうのか見えなくなる。何らかの形で引き続き翻訳、講演等も受け付けてもらえると会員が安心してもらえる形にしたい。

- 藤吉理事 投稿規程にそれを入れるのは厳しいかもしれないが、ホームページのお知らせの欄で告知するなどの方法で対応したい。
- 辻川会長 会誌への全史料協への参加呼びかけ掲載については、会誌の校了に近いということだが。
- 藤吉理事 会誌の校了が近いので、この場で掲載内容の承認が得られれば今年度未発行の会誌への掲載作業に入る。ホームページへの掲載や、6～7年前にも話のあった参加呼びかけリーフレット作成などの方法も考えている。
- 森本副会長 こういう形で参加呼びかけをするは、とてもよいと思う。主に公的機関向けと読み取れる内容だが、企業や宗教団体、学校等も含めた組織活動全体、文書資料全体へのサポートが全史料協はできるというふうに間口を広げていることを伝えられるとよいと思う。『記録と史料』への掲載も大事だが、『記録と史料』を手にする時点で全史料協を知っていることと思うので、ホームページへ早く掲載して宣伝していただくとよいと思う。
- 辻川会長 とりあえず今回の内容をベースに会誌に掲載していただき、今後、委員会内での協議や会員の意見があれば反映するなど徐々に内容をブラッシュアップしてという形で進めていただければと思う。
- 藤吉理事 森本会長のコメントも少し反映できるようにしたいと思う。
- 辻川会長 全史料協が機関会員を増やすということでの回路やツールがあまりないように思う。とりあえずその第一歩として踏み出していただいたので、今後、会長事務局、広報・広聴委員会とも連携しながら皆さんにご協力いただき追及していきたい。

(8) アーカイブズ関係機関協議会について

- 辻川会長より 2/26 に開催されたアーカイブズ関係機関協議会参加結果について報告
- 辻川会長 被災史料の救援保全だけでなく能登半島地震の被災対応の公文書の記録保存にも留意すべきではないかという意見もあるが、森本副会長も入っている国の公文書管理委員会においてそういう情報は何かないか。
- 森本副会長 内閣府の公文書管理委員会は基本的に中央省庁の現用文書の管理がメインになっているので今まで一度も話題になっていないと思う。国の行政文書ファイル管理簿にもともと東北の震災関係の文書があるかというチェック項目があったが、最近結構災害が起こるのでとにかく特別な文書は現用のところでしっかり把握して捨てられないようにという流れが作られつつあるのかなと思うが、国から自治体に対して働きかけということは話題になっていない。
- 毛塚監事 別件で令和5年度事業結果報告の内容で全史料協 SNS の話をどこかに入れる必要があるのではないか。
- 会長事務局 会長事務局の結果報告に入れるべきところを漏れていた。修正する。

(1) 令和6年度事業計画案及び予算案について

①令和6年度事業計画案

○各理事及び事務局より事業計画案について提案説明。

○辻川会長 調査・研究委員会の事業計画案で公文書館機能普及セミナーを大阪府和泉市でとっておられるとのことだが、近畿部会ともぜひ連携していただければと思う。近畿部会事務局ではこの件について何かないか。

○青山理事(稲田代理) 1月に近畿部会例会で和泉市の方にお話しいただいて非常に意欲的に取り組んでおられる熱心な専門職員がいらっしゃるという印象を受けたので有意義な会になるのではないかと思う。

○辻川会長 ぜひ調査・研究委員会と近畿部会で連携していただいて近畿全体でも盛り上げていただければと思う。

○青山理事(稲田代理) 持ち帰り検討する。

○福嶋理事 広報・広聴委員会の先ほど出たリーフレットの話だが、参加を呼び掛ける手法として外部の方に働きかけるといことで大きな効果を得られると思うので、リーフレット作成の方向に向けていただければありがたい。

○藤吉理事 検討したいと思う。

②令和6年度予算案

○各理事及び事務局より予算案について提案説明。

○辻川会長より「AtoMによる電子アーカイブ基盤運用予算の編成について」の補足説明。

○森本副会長 近畿部会で蓄積されてきた「AtoM」について今後全体の予算としてこのサイトを確保していくということで、この先の運用とかどう活用していくかという見通し、計画は何かあるのか。

○辻川会長 近畿部会で入門実習、実践実習を来年度もやっていく予定である。そこに参加してもらうことで自前ではデジタルアーカイブを用意できない財政基盤の弱い機関会員やその職員が差し支えない範囲でこのサイトを利用してオープンソースを使えばデジタルアーカイブを安価に実現できるということ、実装を体験するとともに証明するということが使ってもらえればと思う。もう一つはDXが今後ますます重要になってくると思う。DXの検討チームとか演習をやったり勉強したりするチームも作りたいと思っている。それを基盤にAtoMの研修やサイトをどのように活用していけるか全史料協としても予算をかける意義があるのか検討しながら作っていただければと考えている。

○森本副会長 事業とそれを誰がどう運用していくかと予算がセットになると思う。予算提案としては会長事務局の委託料に付けられているが、今後も事業としてリーダーシップをとるのは近畿部会だということ、どうしてもずれてしまうという気がするが。

○辻川会長 DX部会はまだ発足していないし本部事務局に統合する方向にあり当面は会長事務局がグリップして進捗状況、組織の変容に応じて予算付けも変更するのもありかと

思う。

○森本副会長 実験的にDXのチームを立ち上げて全体としてそのチームを稼働させAtoMの面倒をみたりいろいろな会員が実験も含めて活動できるようなことをする、スタートアップでもあるので会長事務局がサポートする流れという理解でよいか。

○辻川会長 概ねそうである。

○毛塚監事 今の説明でこの場の人は理解できたと思うが、別紙資料の内容をそのまま総会に出すのでは不十分であると思う。前面に全史料協会員限定のことであるということを出した上でもう少しわかりやすく資料を整える必要があるのではないかと感じたのでご一考いただきたい。

○辻川会長 了解した。修正を考える。

(2) 今後の対応方針について

○会長事務局より「全史料協第25期会長ステートメントへの会員要望・提案及び今後の対応方針の検討(案)」(第2回役員会資料)に基づき、1) 会の組織・運営、2) 国際交流、3) 設立50周年事業に取り組む方針について説明。

○辻川会長より補足説明。

○金原理事より大会・研修委員会事務局の事務軽減等についての提案説明。

○藤吉理事 大会参加費を無償にするというのはいいアイデアだと思う。先ほど検討していただいた会員参加勧誘文でメンバーになるとどういったメリットがあるかということ列挙しようとしたのだが、一方で広報ということを考えればやっていることを広くお知らせしたほうがよい。たとえば会誌を印刷して発送すると同時にホームページで公開すると会費を払わなくてもホームページからダウンロードすればよいとなってしまう。全史料協の存在を外部にアピールするという方向と会員だからこそ得られるメリットとをバランスを考えながらやっていかなければいけないと思っている。

○辻川会長 大会・研修委員会の来年度予算は、大会参加費を徴収しない前提の予算組みになっているのか。

○金原理事 基本的には参加費を徴収しないでいけばどうかと思っている。

○森本副会長 大会のオンライン開催の扱いだが、遠隔地の方や職場から派遣する旅費の問題があって派遣が難しいという方が参加しやすくなるというメリットは確かにある。一方でそれが固定化されてしまはないかという懸念もある。つまり旅費は出せないから常にあなたはオンラインでしか参加できないとされてしまう一方で現地開催されていてそこでは対面で顔を合わせる人たちの交流がどんどん進んでいく。そこで差が出てきてしまうことが懸念される。だからといっていい知恵があるわけではないが、そういう問題もあるということとは考えなければいけないと思う。

○金原理事 大会・研修委員会の中でもやはりオンラインではなく対面での開催を中心にしたいほうがよいのではないかという意見が強くある。ただアンケートの中ではオンラインで

の大会内容も残してほしいという意見も強く出ている。知恵がなかなかないところもあるが、うまく折衷するようなどころでできるように努力する必要があると考えてはいる。

○辻川会長 会長ステートメントでオンラインとリアルの交互開催というのを提案したが、大会・研修委員会での検討を聞いていて機械的にそれを推進するつもりはないので、両方いいところをとってのハイブリッドというのも一つの解決策であるし、無理のない範囲で進めたらと。大会とセミナーぐらいしか会員外も含めて参加できる大きな催しが無いことが実は問題かなと思う。そういうのとは別にオンラインで誰でも気軽に参加できるトピック的な集まり持つとかということを進捗させるのもよいのかなと思っている。

○福嶋理事 大会事務ボランティアの件だが、懇親会以外でも大会運営にボランティアで参加したいという人を募るのは賛成である。全史料協の運営に関して閉ざされた会のようなイメージを持っていらっしゃる方も大勢いるように思う。SNS で日常的に会員の方に問いかけ訴えかけをしながら、あなたの力をくださいと日常的に訴えかけることは必要かなと思うので、ぜひボランティアも検討していただければありがたい。

○森本副会長 次年度の事業計画に AtoM のことも含めて書かれていないので会長事務局の事業計画に、たとえば DX 推進を検討するなど柱を立てて表に出すことを検討するのがよいと思う。

○辻川会長 了解した。

以上